

牧師、バイカー、鮫職人として。。。シェア from LA 第48話 「LA ミッション」

鮫職人をしながら無給で教会をしてると献金がどんどんたまっちゃうので様々なミニストリーへ寄付している。米国赤十字や国境なき医師団をはじめ聖書翻訳で有名なウィクリフ、デボーションガイドで知られる ODB や老舗の救世軍などなど。しかし何と言っても教会はコミュニティ、すなわち地元に貢献してこそナンボなので近所のホームレスミッションには力が入る。中でも LA のど真ん中に位置しリトルトーキョーから近い「LA ミッション」とは多くの思い出があり強烈な刺激を受けて来た。

しっかり聖書信仰を土台とし、アメリカでも最大規模のホームレス援助団体である彼らは、アンモニア臭の漂ういわゆる“テント村”と化している 5 番街にある。温暖な LA へは全米から続々とホームレスの人々が押し寄せ今や 10 万人以上が路上で暮らす。私には 6 階建ての複合ビルからなる巨大施設である LA ミッションは深刻化する貧困問題を迎撃する砦に見えてしまう。

数年前に初めてそこを訪ねた時の事は今でも鮮烈に覚えている。寄付をするためにセキュリティゲートを通って物資の搬入エリアに車を止め、事務所はどこかとキョロキョロしていると、「どこか探してるの？」と何やら作業をしているワルそうな兄ちゃんが手を止めて聞いて来た。事務所のことを伝え、見かけによらず丁寧に彼は事務所まで案内してくれた。ほどなく用事を済ませ車に戻ると彼とまた出くわした。

「君はここへ来てどれくらい経つの？」と聞いてみると「10 カ月ほど。ここはサイコーだよ。」と答える彼。「そうか。君も Jesus に出会ったんだね？」「そうさ！彼は俺の人生を変えてくれた。とても Jesus に感謝してる。あと 2 カ月でプログラムも終わるんだ。」彼の名はアンドレス。LA で鳴らした典型的な元チヨロ（メキシコ系ギャング）で相当無茶をしてたらしい。

「で、ここを出てから行くアテはあるの？」「ああ。コロラドのデンバーで兄貴が車の修理屋をやってるんだけど、帰ってこないかと言ってくれてるんだ。」「そうか！良かったな！ついに家に帰るんやな。本当に神さまに感謝しなきゃな！」彼は「本当にそうだよ！」と嬉しそうにどこまでも広がる空を見ていた。ああ、何と言う主の憐みであろうか。まるで聖書最大級の愛の物語「放蕩息子」とその父親のような話ではないか！誰でもイエスの力でやり直せる。生まれ変わる事が出来る。Hallelujah。

「この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。」

